

ジョージア政治・経済 主な出来事

【2016年5月2日～2016年5月8日】

[当地報道をもとに作成]

平成28年5月19日

在ジョージア大使館

1. 外 政

▼コソボのUEFA加盟(3日)

・UEFA へのコソボの加盟をめぐる投票が行なわれ、ジョージアを含む24か国が反対票を投じたが、28か国の賛成によりコソボは55番目のUEFA加盟国となった。ジョージアはコソボの独立を承認していない。

▼ヴィシエグラードグループ・東方パートナーシップ諸国外相会合(4日)

・プラハで開かれたヴィシエグラードグループ(V4)・東方パートナーシップ諸国外相会合に、V4諸国、東方パートナーシップ諸国およびハーン近隣政策・拡大交渉担当欧州委員を含むEUのハイレベルの代表者らとともにジャンネリゼ外相が出席。会合では、協力を更に高める見通しに焦点を当てつつ、2015年のリガでの東方パートナーシップ首脳会議で合意された事項の進捗、東方パートナーシップ地域の現状・安全保障環境について議論された。東方パートナーシップの枠組みにおけるジョージア、ウクライナ、モルドバの主導的な地位が強調され、V4議長国のチェコ外相は、V4はこれらの国々との活発な協力を継続すると述べた。会合の参加者は近い将来のジョージアに対する査証自由化への支持を表明。

▼ジョージア・米・英共同軍事演習に向けた準備(5日)

・5月11日から26日まで実施される共同年次軍事演習「Noble Partner」に向け、M1A2エイブラムス主力戦車、ブラッドレー歩兵戦闘車を含む米軍の軍事装備がブルガリアからフェリーで運ばれ、ポティ港に到着。米軍戦車隊の共同演習への参加は初めて。ジョージア国防省によれば、共同演習には米軍第173空挺部隊パラシュート隊、米空軍C-130輸送機なども参加する。

・共同訓練にはジョージア軍から500名、米軍から650名、英軍から150名が参加する。

▼ジョージア・米・英共同軍事演習に関する露外務省声明(6日)

・ジョージア・米・英共同軍事演習について、露外務省は、「我々はNATO軍によるジョージア領土のこのような利用の継続は、南コーカサス地域の軍事・政治情勢の意図的な不安定化を目的とした挑発的な行動であると考え」との声明を発表。声明は、ジョージアによる「失地回復の追求」を助長しているとして米国と「その同盟諸国」を非難している。

・露外務省の声明に対して、7日、ジョージア外務省は、「軍事演習はいかなる第三者に向けられたものでもない」との声明を発表。

・9日、クヴィリカシヴィリ大統領は記者に対し、「ロシアがアブハジアや南オセチアと結んだ『協定』にははるかに挑発的な内容が含まれていた」として、共同軍事演習にはいかなる挑発的な要素もないと述べた。

▼国防相のハンガリー訪問(6日-8日)

・ヒダシェリ国防相がハンガリーを訪問。ハンガリーのシーヤールト外務貿易相、シミチコ国防相らと会談。「シ」ハンガリー国防相との会談では軍事教育などにおける両国間の協力、ジョージアのNATO加盟などについて議論。

2. 内 政

▼統一国民運動議員の離党(5日)

・統一国民運動(UNM)のヴァンヤゼ議員(元法務次官)が、党の運営が閉鎖的であると批判し、離党を表明。UNMは、「ヴァ」議員が10月の国会選挙の比例代表名簿で10位以内に記載されるよう要求したが受け入れられなかったため離党したとの声明を発表した。

▼共同軍事演習に関する与党連合議員の発言(7日)

・7日、与党連合のメチアウリ国会予算・財政委員会委員長(ジョージアの夢・民主ジョージア党(GDDG))が、共同軍事演習「Noble Partner」について、露外務省声明に言及しつつ、国内でのこのような軍事演習の実施はジョージアにとって「深刻な脅威」を生み出す可能性があり、一部の政治勢力は演習を政治的に利用していると発言。

・8日、ザカレイシヴィリ和解・市民平等担当国務大臣(共和党)は、「メ」議員に対するGDDGの反応がないことを批判。一議員の意見よりもGDDGの「沈黙」のほうが重大であると述べた。

・9日、「メ」議員はTV番組で、領土一体性が回復されないままNATOに加盟することは、「アブハジアと南オセチアを見捨てる」ことを意味するとして、現状でのNATOへの加盟に反対の立場を表明。

・9日、クヴィリカシヴィリ首相は、「『メ』議員の発言はジョージアの夢および政府が追求する外交政策とは全くそぐわない」とする一方で、「ザ」国務大臣の発言は「完全に非客観的であった」と批判。

・ベルゼニシヴィリ議員(共和党)は、「ク」首相は「メ」議員および同調する党員をGDDGから除名するべきであり、「彼らの人質になってはならない」とコメント。

3. 経 済

▼2016年4月の入国者数(3日)

・内務省の発表した資料によれば、2016年1月～4月の入国者数は1,596,916人で前年同期比15.4%増。

・4月の入国者数は462,480人で前年同月比17.2%増。4月中の入国元別では多い順にトルコ(115,887人、前年同月比12.0%増)、アゼルバイジャン(105,695人、同17.6%増)、アルメニア(105,667人、同8.7%増)、ロシア(57,376人、同26.7%増)、ウクライナ(11,699人、同25.99%増)。

EU諸国からの入国者数は17,969人(同2.2%減)。

▼2016年4月のインフレ率(3日)

・国家統計局が速報値を発表。月間インフレ率はマイナ

ス0.3%。食料品・非アルコール飲料の価格が1.0%低下、輸送費0.8%低下、アルコール・タバコの価格が1.5%上昇。

・年間インフレ率は4.1%。食料品・非アルコール飲料の価格が2.3%、アルコール飲料・タバコの価格が14.0%上昇。医療費が10.2%上昇。輸送費が3.6%低下。

▼国立銀行による米ドルの購入(5日)

・国立銀行は外貨市場で2千万米ドルを購入。3月17日以降、米ドルの購入は6度目で、これまでの購入額は計7500万米ドル。

・5月5日付けの為替レートは1米ドル=2.214ラリ。米ドルに対してラリは年初より約8%、1年前より約4.6%増価した。